

平成25年度 第2回函南町立図書館協議会 議事録

- 1 日 時 平成26年3月12日(水) 15時～16時30分
- 2 会 場 函南町立図書館 2階 研修室
- 3 出席者 委員 山邊 義彦 学校教育関係者
辻 真人 学校教育関係者
富永 和彦 社会教育関係者
今泉 良三 社会教育関係者
森 多美子 家庭教育活動者
石田 和久 学識経験者
小俣 成 学識経験者
事務局 酒井 充
佐藤 れい子
大沼 裕幸
- 4 公開・非公開 公開
の 別
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容
- 1 開会
 - 2 挨拶 佐藤れい子館長
 - 3 報告事項 (1), (2)を合わせて佐藤館長より説明。別添資料参照
 - (1) 平成25年度事業報告
 - (2) 平成26年度事業計画

各委員から出されたご意見

委員 利用者統計の中で、図書館のパソコンの利用者数や持込パソコンの利用数が出ていないが統計はとっているか。

事務局 とっていますが、今回は用意をしていませんでした。次回は報告します。

委員 というのは、私は時々持込パソコンの席を利用しますが、持込パソコンの席は、結構利用されていますが図書館のパソコンを利用している人が少ない気がしたので聞いてみました。

事務局 インターネットの利用は結構ありますが、オンラインデータベースの利用は宣伝不足もあって、まだ利用があまりありません。今後も利用が増えるよう宣伝をしていきます。あまり利用されていないのですが、朝日新聞のデータベースについては、明治10年からの記事が検索できます。地域の情報は、静岡新聞・日日新聞のデータベースを、歴史的なことを調べるのは朝日新聞のデータベースを使うと有効的だと思います。

委員 今後もデータベースの利用が増えるよう、周知を工夫して下さい。

委員 1月に田方地区の社会教育委員の研修で訪問させていただきました。定年を迎えた世代の人たちが、その後の生活の中で学ぶ場をどこで得て、学んだ事をどういう形で社会に還元していけばいいかという課題で研修を行いました。そのなかで、図書館と子育てセンターを見せてもらいましたが、施設は勿論職員の皆さんも前向きで素晴らしいという意見を他市町の委員からいただきました。社会教育施設というのは、本来学ぶ場ではありますが、反面地域住民がボランティアとして参加して一緒になってやっているところが素晴らしいという意見でした。

事務局 読み聞かせボランティアの27名の他、多くのボランティアにご協力いただいています。

委員 現在読み聞かせボランティアの方々の平均の年齢はどのくらいでしょうか。

事務局 はっきりわかりませんが、60～70歳くらいだと思います。

委員 5年後の事を考えた時に、このままだと何人の方はもう引退されることが考えられます。なので今から若い世代の方々を育成することをやっていかなければならないのではないのでしょうか。現時点のボランティアも図書館で育ったボランティアではなく、それぞれ活動していたグループの人たちが入っているだけなので、統一性がない。これからは図書館が函南町の読み聞かせボランティアの拠点としてやっていかないと、いけないのではないのでしょうか。

事務局 今年度も読み聞かせボランティアの交流と統一を図ることを目的として、研修会を開催しました。来年度以降もボランティアの研修会を引き続き行っていく予定です。

委員 以前は、朗読グループが独自で勉強会を開催していましたが、現在はあまりそういう機会も減ってきているので、図書館でそういう勉強会をやっていたらと思います。

事務局 図書館で研修会を考えていきます。

委員 なかなか若い人たちのボランティア参加は、子育てなどもあって難しいと思いますが、時間などを工夫するなどして、若い世代のボランティアを増やす努力をしていってください。

委員 7ページに教育施設への資料のセット貸出とありますが、丹那小などは読み聞かせボランティアなども少なく困っているようです。丹那小は幼稚園も隣接しているので、図書館の司書が学校へ出向いて読み聞かせを行うのとあわせ本を貸し出すなんていうのはどうでしょうか。

事務局 今後は、先生が言われたように学校に出向いての読み聞かせやブックトークなども行っていきたいと考えています。また、職員ではありませんが26年度から読み聞かせサポート隊として、学校の読み聞かせなどで読み手が足りない学校にボランティアを派遣するという事も始めます。

委員 中高生の利用率が低いということで、何とかしなければと思っているところですが、26年度も図書館見学を継続してくれるということで、見学して何を勉強するかについて事前に打ち合わせができれば、より効果のあるものになると思いますのでよろしくお願いします。あとブックトークですが、読み聞かせはしてくれる人が多くいますが、ブックトークはなかなかやってくれる人がいないので、図書館でやってもらおうとありがたい。そんなところから本を身近に感じさせて利用を増やしていければいいのではないかと。

委員 音訳ボランティア養成講座の活動ですが、私が知っている限りでは社会福祉協議会と図書館だけですが、これも近い将来を考えるとすべて図書館でやるべきだと思います。機材のこともありますし、人材についても重なっていますので、将来的には図書館で統一してやった方がいいのではないかと思います。

事務局 承知しました。調整して進めていきます。

4 協議事項

(1) 年末の休館日について 事務局より主旨の説明

事務局 年末年始のお休みについては、規則の中で定められています。現在の規則でいきますと、12月は第4金曜日を館内整理日で休館して、28日が仕事納めのための休館となっています。しかし、昨年の年末を開館してみて館内整理と仕事納めの休館を兼ねても支障がないこと、合わせて、休館が1日増えることで利用者様に不利益になることから、別紙案のとおり規則の変更を提案させていただきます。意見がありましたらお聞かせください。

事務局 特に意見がないので、この案を軸に考えさせていただきます。

(2) その他図書館事業全般について

委員 駐車場がもう少し増えるといいなと思います。

委員 第1回の会議の際に、かなみ読書週間の実施事業について協議をしました。がどんなことを実際にやったんですか。

事務局 記念講演として筑波大学の先生にお話をしてもらったほか、工作教室や読み聞かせ、本のリサイクル、学校の読書推進活動を紹介したパネル展などを実施しました。

委員 読書週間の各学校での取り組みについて、近くになったら司書教諭とも打ち合わせを持った方がいいと思います。

事務局 それについては、学校司書との連絡会の中で情報交換を行っています。

委員 学校司書は結局、臨時職員で掛け持ちしている人もいますので読書週間の時くらい司書教諭も交えてやった方がいいのではないかと。

事務局 是非、そうさせていただきます。

委員 これからの計画のなかで、西部コミュニティーセンターの整備とあるが具体的にはなにかありますか。

事務局 1度に大きく変えるのは難しいのですが、図書館で除籍処理した本を持っていき、古い本を廃棄していきたいと思います。ただ、パソコンの本とか法律の本などは、古くなってしまうと価値がなくなってしまうので、小説類しか使えないと思います。

事務局 西部コミュニティーの運営は、図書館の運営とは別の事業でやっているんですが、あそこの図書室を図書館の事業としてどのようにとりこんでいくかということで、図書館の計画の中に入れてあります。長期で見ればお約束は出来ませんが、図書館の分館とするよう考えていかなければならないと思っています。しかしながら、地域のコミュニティーセンターとして分館にするより有効的な使用方法があるならば、本をすべて撤去するのともいわないと思っています。とにかく有効な利用をして、地域に根付くのが西部コミュニティーの役目であると思います。そのような考えの中で分館が必要であるとなればそのような方向で進んでいくと思います。

5 閉会 酒井課長あいさつ

次回、平成26年度第1回の協議会を7月に予定。